

【進学支援を受けた生徒からのメッセージ】

2011年度進学支援で給付を受けた生徒244名全員が、受験の感想や進学後の抱負などを書いた受験報告を提出しました。その中から各校3名を掲載します。括弧の内容は、生徒の性別と支援を受けて受験した学校の概略です。またこの支援の窓口となられた高校の先生方の声も併せてご紹介します。



福島県立原町高校

受験を終え4月から始まる新しい環境での生活への期待と不安が混ざりあった気持ちです。しかし私は、大学の土木環境工学科で人間と自然の共存そして自然災害に強い街づくりが実現できるように勉学に励み、福島県そして南相馬市の復旧・復興にかかわることができる人材になれるよう努力していきたいと思います。(男子:東北の国立大学)

昨年は震災によって生活が大きく変わったため、予定していた勉強がほとんど出来ず、国立大学を目指すことを断念しました。それでも、出来る限りの努力をして無事、第一志望とした大学に合格しました。受験は勉強もそうですが、精神面での落ち着きなど、様々なことが必要なんだと感じ、今となっては、とても良い経験だと、ひしひしと感じています。また支えてくれた多くの方に感謝の気持ちを持ちました。(男子:関東の私立大学2校)

震災でくじけそうになっても今まで決して夢を諦めずに少しずつでも前に進もうと努力する事が出来たという意味では、以前までよく諦める事が多かった私にはこの1年間はとても価値のあるものになりました。私は将来、看護師になることを志しています。この貴重な1年間をこれから先大切に、"諦めない自分"がいたことを忘れないようにしたいです。どんなに辛いことがあっても、この事を心に留め、より精神的に強くなりたいと思います。(女子:関東の私立大学2校)

3学年担任としてこの事業によるご支援は大変ありがたいものでした。:渡辺先生

宮城県石巻高校

震災当時のあのような状況からは無事に大学入試を終えることなんて想像もできませんでした。受験を終えて、先生方、両親、ご支援していただいた方々への感謝の気持ちでいっぱいです。大学では自分が学びたいと思う学問を専門に学ぶことができるのでしっかりと勉学に励みたいです。(男子:北陸の国立大学と関東の私立大学)

東京と横浜で受験しましたが、石巻とは全く違い全てが3.11以前と変わらない事に愕然としました。石巻の中で精一杯頑張ったつもりでしたが、全国の受験生と同じ土俵に上る事は無理だと痛感しました。多くの支援を受け支えられ受験する事ができました。初心を忘れる事なく勉学につとめていきたいと思えます。(男子:関東の私立大学2校)

支援していただいたおかげで前泊し、余裕をもって試験に臨めました。試験時間いっぱい余すことなく全力で取り組んだので清々しい気持ちです。進学後は社会人となることを意識しながら勉学に励もうと思います。(男子:東北と関東の国立大学)

様々な支援がありました。こちらの事情を察して簡便な手続きにして頂いたことや、また要望にも柔軟に対応して頂いたことに深く感謝しております。生徒や保護者からも本当に感謝された支援でした。:佐々木先生

宮城県気仙沼高校

私は将来、高校の社会科の教員になりたいと考えています。震災を経て、教員の「伝える」力は、この震災を忘れないために、未来にこの記憶を残していくためにも、活かしていけるのではないかと思います。将来は地元に戻り、宮城県の教員として働きたいです。その時に沢山のことを伝えられるように、大学生活で様々なことを吸収していきたいです。(女子:関西の私立大学)

私は受験の時、自分でも驚くくらい落ち着いた気持ちで受ける事ができました。指導して下さった先生方、教えあった友達、支えてくれた親、自分に関わってくれた全ての人達—それがあって、自分があるのだからきっと受かると信じることができたのです。大学では語学と観光について学び、将来、気仙沼に戻り観光産業を発展させて、復興に力を尽くそうと考えています。(女子:関西の私立大学)

震災による被災で、今後の生活だけでなく、大学進学についても迷うときもありました。しかし、このような支援のおかげで、大学進学という目標を捨てることなく勉強に励むことができました。大学進学後は、特に海洋環境のことを学び、地元の水産業の発展に貢献できる人材になりたいと考えています。多くの人々への感謝の気持ちを忘れず、様々なことに挑戦していきたい。(男子:四国と九州の国立大学)

生徒たちも皆様のご厚意により、例年以上の受験機会を与えて頂き将来に向かって努力することができました。本当にありがとうございました。:白幡先生

岩手県立大船渡高校

2年生までの私は、受験勉強とは、やらなくても何とかなるものだと考えていました。しかし震災があり、自分の進路のために勉強をしたくても出来ずにいる人がたくさんいることを考えると自分の今までの行動が恥ずかしくなり、この1年は何事も全力で自分なりにやってきました。受験勉強で得られたものは多く、甘ったれた自分を変えるきっかけにもなりました。(男子:関東の国立大学)

受験を通して、努力することの大切さ、支えてくれる人たちへの感謝の気持ちなど、これから生きて行くうえでの大切なことをたくさん学びました。一生懸命努力して人のために頑張ることのできる看護師に絶対なります。震災で改めて考えさせられた1つ1つの命の大切さを、ずっと忘れることなく、これからも前向きに歩いていきたいと思えます。(女子:関東の私立大学)

震災で大きな被害を受け、両親へあまり経済的負担をかけたくないと思いついて進学を断念しようと考えた時期もありました。しかし自分が将来的にやりたいと考えていることを諦めたくないとの思いもあり、もう一度大学進学を目指すことにしました。今後は大学で多くのことを学び、少しでもご支援くださった方々に恩返しをしたいと考えています。(男子:東北の私立大学2校)

多くの生徒をご支援いただきありがとうございます。未だ復興途上にあり経済的に大変な家庭が多く、引き続きのご支援を宜しくお願いします。:切田先生

岩手県立高田高校

進学後は、少しでも授業料や生活費をまかなえるように昼間はアルバイトをし、夜間の授業と両立できるように頑張りたいと思います。同じ志をもつ友達と支え合いながら頑張って、将来は保育士になりたいと思います。(女子:東北と関東の私立短期大学)

受験の面接で、“被災したのに、よくここまで頑張ってきたね”と言われ、改めて被災状況の大きさ、たくさんの支援の多さに気づかされました。家も学校も全壊し、鉛筆・消しゴムを買うといった、本当に最初の状態からスタートしました。学校にもたくさんの支援物資が届いたり、奨学金のサポートをしていただき安心して受験勉強に励むことができました。(女子:関東の看護専門学校2校)

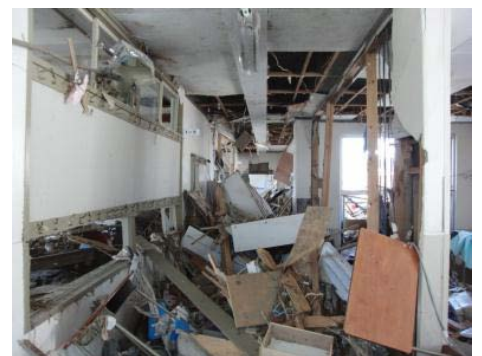
今回の受験によって、看護師の資格をとるための一歩を踏み出すことができました。私は将来、助産師として地域の産科医療に携わりたいと考えています。そのために看護師資格をとった上で助産師となり、これから生まれてくるかけがえのない命を大切にしていきたいです。その夢にむかって一生懸命勉強に励み、叶えていきたいと思います。(女子:東北の公立大学と専門学校)

受験を控えた生徒への負担(申請時での書類提出等)が少なく、多くの生徒に対して支援していただき大変嬉しく思っています。:滝川先生

【進学支援を受けた各高校の被害状況】

2012年3月に各高校から提示された情報です。

| | 原町高校 | 石巻高校 | 気仙沼高校 | 大船渡高校 | 高田高校 |
|---------------|---|---|--|---|---|
| 全校生徒数 | 408名 | 715名 | 818名 | 674名 | 508名 |
| 2011年度3年生数 | 142名 | 235名 | 276名 | 211名 | 151名 |
| 死亡者数(行方不明者含む) | - | 生徒1名 | 生徒1名 | 生徒13名 | 生徒22名、教員1名 |
| 震災遺児・孤児数 | - | 8名 | 遺児14名、孤児3名 | 遺児12名、孤児1名 | 遺児29名、孤児5名 |
| 内、3年生の該当者数 | - | 5名 | 7名 | 5名 | 9名 |
| 家屋等の被災者数 | 32名 | 480名 | 332名 | 261名 | 157名 |
| 内、3年生の該当者数 | 14名 | 176名 | 98名 | 82名 | 52名 |
| 学校の被害状況 | 体育館の外壁が一部崩落、校舎の随所にヒビ。避難区域指定となった為、5/9より相馬高校と福島西高校の一角に間借りしたサテライト校で授業再開。 | 校舎一部の損壊、学校設備の破損、流出。震災後41日間休校、再開後1カ月は交通事情により時短授業を実施。 | 壁や天井の崩壊や崩落。震災時帰宅困難生徒225名。1か月遅れでの新学期開始。 | 体育館の窓ガラス落下、大ホールの天井破損。半月遅れでの新学期開始。 | 高田本校舎が全壊、広田校舎1階部分が全壊、職員住宅が全壊。震災から5月1日まで休校。大船渡市にある廃校となった校舎を仮校舎として再開。 |
| 現状と今後について | 震災直後半数以上の生徒が転出。その後少しずつ生徒が戻り、現在は本来の約6割の生徒が在籍。震災と原発事故のために失職または大幅な減収となった保護者がかかなりの数にのぼり、今後の見通しも厳しい状況が続いている。 | 交通機関や道路の復旧が進まず、生徒の通学に未だ支障がある。この地区の経済や保護者の経済状況が好転する要素はなかなか見いだせないが、進路決定にも大きく左右するところがある。 | 肉親を失った心の痛手から立ち直れない生徒や余震に怯え続ける生徒もいて、精神的なケアが必要。水産業の復旧・復興が進まず雇用も改善されないため、経済的な不安を抱える生徒も多く、今後進路選択に向け影響が懸念される。 | 学校の機能は回復したが、電車通学ができない状況が続いている。家屋が被災し自宅から通学できない生徒が約20%。解雇や失業中、自宅待機など3人に1人の家庭が、仕事の不安を抱えている。 | 陸前高田市から20数キロ離れた仮校舎への通学に難儀している生徒や経済的に厳しい状況が続く生徒が多い。3年後の新校舎完成を目指している。 |



校舎の3階にまで達した大津波により全壊した陸前高田市にあった高田高校。校内にいた生徒・教職員は裏山に避難して無事だった。



← 震災当日、気仙沼高校の帰宅困難となった多くの生徒達が体育館で不安な夜を過ごした。

震災から半年間、気仙沼高校の体育館は避難所として使われ、生徒たちは避難所の手伝いを積極的に行った。 →

